

## 第 25 回冬期講習会 参加報告

齊藤 真一郎  
(コニカ(株))

去る平成 11 年 1 月 12 日, 13 日に日本光学会主催の第 25 回冬期講習会が東京大学の生産技術研究所にて開催された。今回は「光工学における多波長活用技術—光源からシステムまで—」というテーマのもと、表 1 に示すプログラム編成で行われた。

初日は、来るべきマルチメディア時代に必要となる Tb/s オーダーの超大容量伝送技術としての波長多重 (WDM: wavelength division multiplexing) 通信に関連した講演があり、この波長多重通信に使用される半導体レーザ、ファイバーといったデバイスに関する講演と、FTTH (fiber to the home) システムなどへの WDM 技術の応用に関しての講演がなされた。

2 日目には、2 波長光源が使用される CD/DVD 互換ピックアップシステムにおける球面収差補正デバイスや互換方式についての講演、1 つの記録スポットに複数の信号情報が得られる光化学ホールバーニング方式 (PHB 記録) の講演、光波コヒーレンス関数の合成やコヒーレンス分光トモグラフィなどのシステムや応用例についての講演がなされた。

講演時間が 90 分もしくは 120 分あったので、各講演とも基礎的なことから始まって最先端技術まで丁寧に説明があった。講演時間の長さが十分であるので、個人的になじみのない技術分野であっても各参加者が講演内容を吸収することができたと思われる。講演に関しての質疑応答も関心を引く議論がなされていた。

また、デバイス、システムの双方にバランスよくプログラムが編成されていた。デバイスに関しては商品化が必達

であるため、低コスト化、信頼性、実装技術などをどのように実現したのかを詳細に説明していただいた。システムに関しても、ピックアップといった現在商品化されたものから、光波システムの応用例としての光センシング、光情報処理などを説明していただいた。改めて、光の適用範囲の広さと奥の深さを実感した次第である。

次回も、魅力のあるテーマに基づいた講演が行われ、活発な質疑応答が行われる冬期講習会が開催されることを期待したい。

また初日の講演終了後の懇親会では、ドイツワインが振る舞われており、講演者や参加者の懇親を深めていたことを付け加えておく。

最後に、今回お忙しい中ご準備いただいた実行委員の皆様、ご講演いただいた講師の方々にも深く感謝いたします。

表 1 第 25 回冬期講習会プログラム。(敬称略)

高機能半導体レーザ	東盛裕一 (NTT)
波長多重通信用半導体レーザの波長制御	山口昌幸 (NEC)
波長多重通信用導波路・ファイバデバイス	上塚尚登 (日立電線)
波長多重 (WDM) 技術のアクセス系への応用	柴田 宣 (NTT)
CD/DVD 互換レンズと集積化光ピックアップ	西野清次 (松下電器)
光ディスク用基板厚 0.6 mm/1.2 mm 互換二波長光ヘッド	片山龍一 (NEC)
波長多重光メモリ	吉村 求 (三菱電機)
波長可変半導体レーザを用いた光波コヒーレンス関数の合成によるリフレクトメトリならびに断層映像法	保立和夫 (東大)
コヒーレンス分光トモグラフィ	伊東一良 (阪大)